

障がい者アンケートについて

区内障がい者 5,000 名、一般区民 1,000 名を対象に、アンケートを実施する。

○身体、知的に調査については、前回同様の無作為抽出を行う。

ただし、ライフステージを重視するため、学齢期（～17 歳）、青年期（18 歳～39 歳）、壮年期（40 歳～64 歳）、高齢期（65 歳～）の 4 ステージに分類し、ステージごとに調査票数を均等にする。

○精神・難病も基本同様だが、学齢期の人数が少ないため、ステージごとの調査数に調整を加える。

- ・障がい児を除き、概ね、20 分以内に回答できる分量に抑える。
- ・選択肢は、原則 6 つ以内に留める
- ・ライフステージにより、同じ障がいでも、質問を変更する（学校、就職等）。
- ・視覚障がい者向けに配慮して作成する
- ・抽出基本データは、2017 年 6 月 1 日

※今回のアンケートを通じて検討すること

障がい者が、必要な情報や相談先を得ることができているか。
差別されることなく、合理的配慮を得られているか。
日常の暮らしで、どのようなことに困っているか。
必要なサービスを受けることができているか。

障がい児の保護者に対し、障がいの認知がいつ頃で、どのように相談したか。

区民の、障がい者に対する理解、コミュニケーションが、障がい当事者と、どのように差異があるか。

◎障がいの現状、医療と健康管理

◎介助、援助への状況＋保護者について（障がい児）

◎相談や情報入手

◎日中の過ごし方（障がい児は学校、青年期以降は就労等）

◎差別や権利擁護

◎障がい福祉サービスへのニーズ

◎区の取り組み